

2025 年 11 月 14 日
カヤバ株式会社
(証券コード 7242)

2025 年度第 2 四半期 決算説明会 質疑応答

開催日 : 2025 年 11 月 14 日 (金)
出席者 : 代表取締役社長執行役員兼 CEO 川瀬 正裕
代表取締役副社長執行役員兼 CFO 齋藤 考
取締役専務執行役員 高岡 知樹
専務執行役員 石川 実
常務執行役員 矢崎 健二

決算概要について

- Q. 上期のセグメント利益は社内計画に対してどの程度上振れたと考えればいいか。
また、米国関税の影響と売価回収はどのくらいであったか。
- A. 計画は昨年とほぼ同レベルを想定していたが、実績は大幅に上振れる結果となった。
米国関税は上期実績で約 14 億円の影響があり、約 7 億円は売価で回収することができた。下期は上期以上に売価回収ができると見込んでいる。
- Q. 今後の為替変動のリスクについて、どう見ているか教えてください。
- A. 下期は 1 ドル 143 円で計画を立てており、現時点では 10 円程度円安に推移しているため、このままの水準でいけば計画より利益が上振れることになる。

長期ビジョンについて

- Q. ROE11%と設定した背景として、利益率の向上と自己資本の考え方を教えてください。
- A. 現段階で具体的な数字はお示しできないが、この 10 年のうち、前半に集中的に成長投資を行い、後半でリターンを得ることで利益を向上させることを想定している。できるだけ資本の効率性も重視しながら、同時に財務の健全性もキープしたいと考えている。

- Q. 成長投資枠 3000 億円には従来設備維持更新投資は含まないとのことだが、計画にはどの程度織り込んでいるのか。
- A. 過去実績は年間 100～150 億円程の間で推移しており、ほぼ同水準の従来設備維持更新投資を織り込んでいる。
- Q. これまで、AC 事業のプレミアム市販やインド市場進出、HC 事業の構造改革などのトピックがあったが、事業ポートフォリオの最適化に関する説明の中では触れていただけではない。現在の進捗や、計画の変更があるのか教えてください。
- A. AC 事業のプレミアム市販はアメリカで販売を開始しており、インド進出についても現地法人を立ち上げた。また、スマートフォンで自由に減衰力を調整できる電子制御サスペンションシステムに関しても、アフターマーケット市場にトヨタ ハイエースより順次発売する予定。
HC 事業は原価低減を目的としたシリンダの中国生産準備が完了しており、お客様の品質の承認を得るところ。今回の説明には含まなかったが、計画の中断はなく進捗している。
- Q. 製品ポートフォリオの最適化や新規事業の立ち上げを 3 年単位で推進し、ビジネスを確立・拡大していくという計画は、時間軸的にかなりスピード感があるように見える。会社のリソースは限られているが、実現性についてどう考えているのか。
- A. 企業価値を高めていくためにはスピード感を持たなければならないと考えている。現有のビジネスの効率も当然上げる必要があるため、開発の自動化ツールの導入や工数削減などといった効率化を進めながら、新しいことにチャレンジしていく。新たなカヤバを目指していきたい。

以 上